

トウダイグサ科アカメガシワ属

アカメガシワはカシワと名前がつくが、柏餅の「カシワ」の仲間ではない

(カシワはブナ科)
ブナ科: クリ、クヌギ、ナラ、カシ、シイなどざっくりドングリ系の樹木

アカメガシワ

和名: 赤芽柏
別名: ゴサイバ (五菜葉)、サイモリバ (菜盛葉)
学名: Mallotus japonicus
英名: Japanese mallotus

特徴

特に目立って目にとまるような樹木ではありませんが、日当たりの良い山野に多く自生しており、街中の道路端でも土手でも、あちこちでよく見かける樹木。その特徴を知ると、赤い新芽や、大きな葉がとてもわかりやすく変化を観察しやすい。

5 ~ 10mほどの落葉高木

名前の由来

春、新芽(葉)が赤色をしていることから。

早春

新芽が赤い理由

赤い色で身を守っているから。

表面に細かい赤毛が密生。新芽は柔らかく弱いので、春先の霜など寒さのダメージを受けないように毛が守っている。赤い毛には**アントシアニン**が含まれていて、新芽を紫外線から守っており、成長するにつれ赤い毛を落として緑色になっていく。

アントシアニンとは？

植物が、紫外線など有害な光から実や葉を守るために蓄えられている天然色素(ポリフェノールの一種、ブルーベリーや茄子の色などが代表的)

赤い毛は指でこすると簡単に剥がれ落ちる。

剥がした部分を拡大
星形のような
星状毛が美しい

葉を紙に挟んで上から指の背で削ると
きれいに写し取れる。
アントシアニンが滲み出したことによる

柏餅の葉は？

現在はブナ科のカシワを柏餅に使いますが、江戸時代初期までは**アカメガシワ**やホオノキのことをカシワと呼んで端午の節句の柏餅に使っていた。

かしわは「炊ぐ(かしぐ)葉」→「炊し葉」が由来。特定の植物を指す言葉ではなかった。

柏餅の葉も西日本ではサルトリイバラが多く、カシワは関東・中部、その他ホオノキ、**アカメガシワ**など柏餅の葉は「かしわ」だけではないことがわかる。

昔はこの葉をお供え物の器として利用



アカメガシワの葉



サルトリイバラの葉

初夏



雄株



雌株

生薬

古くから生薬として用いられてきた。

- ・腸の抗酸化作用
 - ・腹痛の軽減
 - ・胃の健康を保つ
- 効果が期待できる。



雌雄異株

近くに雄雌両方あることもしばしば。雌は赤い小さい花がつく。